

令和4年度社会福祉法人まるこ福祉会

事業報告



第50回 子どもレストラン・きらっと

一.はじめに

令和4年度は、「危機の時代」や「不確実な時代」という形容詞が何度も使われ、「コロナ禍」、「ウクライナへの侵攻」、「トルコ、シリア大地震」等、想像を絶する予知できない出来事が勃発し、この行き場のない喪失感がいたるところで広がっており、生活上でも精神的にも突然の困窮にさらされる事態が生じた年であり、残念にも現在も継続中であると言わざるを得ない深刻さでもあります。

しかし、絶望や悲嘆を嘆いても何も始まりません。14世紀欧州人の4分の1を死に追いやったといわれるペストが大流行した時も、想像を絶する社会的混乱が発生し、その時の、イタリア詩人・ペトラルカの言葉を、思い起こすのであります。それは、「人間が見つめるべきは、外界でなく、『心の世界』である。人間の魂の内部こそ、人を幸福にするものと不幸にするものがある」と。

様々な艱難にも負けず、今こそ、まるこ福祉会の理念に立ち返り、明年の令和6年、創立20周年を目指し、あらゆる人々と連帯しながら前進していきたいと決意し、以下に令和4年度の事業報告をします。

二、まるこ福祉会が目指す理念

「人の心に幸せの種をまき、人を育てる」

明治の文豪・幸田露伴の「努力論」の中に、「人間の生き方」を3つに分類したところがある。それは「惜福」「分福」「植福」である。

「惜福」とは、自分が持っている財産や宝を無駄遣いしないこと。

「分福」とは、自分だけ楽しまず、人に福を分けてあげること。

「植福」とは、幸せを、人の心の畑の中に、種を蒔いてあげること。そして、幸せの花を咲かせてあげる人のこと。

私たちまるこ福祉会は、この「植福」を、障害の有無にかかわらず、どんな人々も味わえるよう、施設やグループホームにおける様々な作業や生活をとおり、その人の人生において、心の畑に幸せの種をまき、幸せの花を咲かせることを、永遠に目指してまいります。

○理念の達成を目指し、職員朝礼で確認し合う具体的実践項目として、次の事を「職員指針」と定め掲げて、前進ある日々を送ってきました。

(1) オアシス宣言

「オ」… 思いやりの心で

「ア」… 明るさを大切に

「シ」… 幸せなときを

「ス」… 過ごせる職場 ホーム まち 人生を目指す

(2) 「あいさつの心」

あ…あかるく笑顔で

い…いつでも

さ…さきに

つ…つづけて

(3) 「明るい職場は心も成長」

み…認め合う心 (尊重)

た…高め合う心 (向上と練磨)

よ…寄せ合う心 (協調)

(4) ATM

A…明るく

T…楽しく

M…前向きに

三 令和4年度 施設別 事業報告

1、 就労継続支援B型事業・生活介護事業

とんぼハウス 就労継続支援B型事業

令和4年度年間利用者実績

生活介護事業

利用者稼働率 87%

きらり 就労継続支援B型事業

令和4年度年間利用者実績

生活介護事業

利用者稼働率98.5%

1-1 利用定員・職員構成

事業種別	とんぼハウス		きらり	
	就労継続支援B型	生活介護	就労継続支援B型	生活介護
利用者定員	20人	20人	30人	10人

職 員	管理者	1人	1人	1人	1人
	サービス管理責任者	1人	1人	1人	1人
	職業指導員 生活支援員	5人	8人	7人	8人
	看護師		2人		1人
	嘱託医		1人		1人

1-2 主な自主活動の内容と、受託作業及び趣味や特技を活かした活動

	とんぼハウス	きらり
資材リサイクル作業アルミ缶回収	○	○
施設外就労	○	○
農作物・果樹の栽培・収穫と販売	○	○
パン・クッキーの製造と販売	○	○
受託作業		
梱包用シートの再利用の簡易作業	○	○
カレンダーの袋入れ	○	○
菓子箱折り	○	○
チラシ折込と封入など	○	○
ジャム瓶のシール貼り		○
プラスチック部品の梱包作業		○
リサイクル品の回収と分別	○	○
リサイクル品の解体と分別	○	○
趣味や特技を活かした活動		
ハワイアンダンス	○	○
カラオケ	○	○
ヨガ	○	○
手話ダンス	○	○
楽習会	○	○

読書	○	○
映画鑑賞	○	○
フラワーアレンジメント	○	○

2 総合厨房（パン工房ぐらんまるしえと厨房）

（1）職員体制

正規職員 4名 臨時・パート職員 11名 計15名

（2）パン工房ぐらんまるしえ

- ・食事の提供と、パンの販売、ランチやテイクアウトも実施。
- ・東日本大震災復興支援コーナーの常設。
- ・健康食品コーナーを設置。
- ・新作のパンや料理の研究。

（3）厨房

現在の給食数

- ・朝食 特養 大樹の利用者 29食
- ・昼食 特養 大樹の利用者 支援施設きらりの利用者 約100食

両施設の職員

- ・夕食 特養 大樹の利用者 29食

平成29年2月1日より、きらり利用者、大樹利用者及び職員の給食を開始し、5周年を迎えた。

3 共同生活援助事業所 ホームとんぼ

（1）職員体制 ・管理者1、副管理者1、サービス管理責任者1

・世話人・生活支援員 10人

（2）障がい者の共同生活支援 ホームとんぼⅠ、Ⅱ、Ⅲ

（令和5年度に、車いす対応のホームとんぼⅣを新設）

- ・ 隔月を原則に、世話人懇談会を実施し、資質向上と共通理解を図る。
- ・ 自力通所できる利用者は、バスを使って通所している。（8名）
- ・ 利用者との懇談会を実施し、基本的な生活習慣の醸成を図る。
- ・ 大型休日を利用して、会食会等の実施。

4 地域密着型特別養護老人ホーム 大樹

- ① 加算状況：ユニット型介護費、看護体制加算、栄養マネジメント強化加算、褥瘡マネジメント加算、サービス提供体制強化加算（Ⅲ）処遇改善加算（Ⅰ）特定処遇改善加算（Ⅱ）ベースアップ等加算
- ② 令和4年度年間稼働率（長期入所）98.5% （短期入所）14.5%
施設内での看取り31名。
- ③ 現在の職員数

	常勤	非常勤	計
施設長	1人		1人
医師(嘱託)		1人	1人
看護師	2人		2人
介護職員	13人	11人	23人
管理栄養士	1人		1人
生活相談員	1人(兼務)		1人
介護支援専門員	1人(兼務)		1人
機能訓練指導員	2人(兼務)		1人
事務職員	1人		1人

④ 短期入所（従来型）

リピーターも多く継続利用いただいています。またコロナ感染症によりショートステイの受け入れが出来ない時期もありました。今後は、地域の貢献が出来るように積極的に受け入れを行います。

- ⑤ ・ 福利厚生及び活動：全員の胸部レントゲン撮影実施により健康管理に努めました。

- ・職員が働きやすい環境を目指し福祉の面白さを職員にも伝えモチベーションが上がるよう研修を充実させ、人材育成に取り組み意識改革を図りました。また離職させないように職員の職場環境改善に努めました。

- ・全体学習会を定期的を実施し、職員一人ひとりが力をつけどんな場面にも対応できるよう努めてきました。

- ・今年度も各種委員会活動を充実させてきました。特に身体拘束廃止検討委員会では各ユニットの委員が自分のユニットでの問題点を持ち寄り検討を重ね事故が起こらないように徹底をしました。また新しく美化委員を設け施設の内外の美化活動の取り組みが出来るように引きつづき活動を行っていきます。

- ・コロナ感染症対策による面会制限もあり、ご家族との面会が出来ない時期は、入居者全員のお宅に職員から利用者の様子や写真などを添えてお手紙を出し、出来るだけ安心して頂ける様に対応してきました。

- ・面会自体も施設内では、キーパーソンのみ面会でアクリル板や次亜水噴霧器を使用し、換気を行いながら行い。他のご家族の皆様にもガラス越し面会で感染症対策を取り安全な環境で行う事が出来ました。コロナウイルス感染症での利用者の感染はゼロで運営できました。

- ・さくら小路の土手を整備してたくさんの草花を植えていただいたので利用者の皆様がとても喜ばれ東屋ではお茶会を行いました。

⑥ 特養の使命である看取りも、平成29年3月の開所以来 31名の看取り行う事が出来ました。今後は看取り支援の質の向上の為に加算の取得を行ってまいります。

IV 地域福祉の灯台として、「社会貢献活動」に努める事業から

令和4年11月19日に東京で開催された、「全国ボランティアフォーラム2022」（全国社会福祉協議会主催）では、今日までのまるこ福祉会の社会貢献活動の事例発表が評価され、全国に向けて発信をすることができました。その主な事例の一部を以下に報告します。

また、その2か月前には、関西と横浜の大学教授4名が視察に訪れ、地域に

根差した長年の社会貢献活動を理論面から追究され、その学究成果は来年の教育論文として発表される運びとなりました。

以下では、社会貢献活動の代表的な事例の報告をします。

1 「こどもレストラン・きらっと」の連続開催

平成30年8月4日に第1回を開催した「こどもレストラン・きらっと」は、令和5年3月で55回の歴史を刻むことができ、特筆すべき事として、子どもだけでなく、中学生、高校生、大学生の成長する姿がありました。

令和4年10月1日に開催された「こどもレストラン50回記念祝賀会」の体験発表と第51回の参加者の感想を紹介します。

(1) 信州大学教育学部現代教育コース3年 成澤乃彩さん

こどもレストランきらっと50回記念誠におめでとうございます。

私は、信州大学教育学部現代教育コースに通う3年生の成澤乃彩と申します。

私は今から三年前の高校三年生の五月に、初めてこどもレストランにボランティアとして参加しました。参加したきっかけは主に二つあります。一つ目は、こども食堂という場所に興味があったからです。ある日、母子家庭で塾に行けない子どもに勉強を教えたり、ご飯を提供している「子ども食堂」という存在を知りました。私の家庭も母子家庭であるため、似ている境遇の子の力になりたいと思いました。もう一つは、私自身が学校の先生を目指しており、子どもと関わる経験をしたかったからです。私は中学生の時に起立性調節障害という病気を患い、不登校になりました。しかし、中学三年生の頃に出会った一人の先生の影響で、私の中で先生になりたいという思いが芽生えました。そして、高校進学を目指して勉強し、丸子修学館高校に進学しました。

そんな高校三年の四月、母にまるこ福祉会でこどもレストランが開かれていること教えてもらいました。そして私は学校帰りにすぐにまるこ福祉会へ向かいました。突然行ったにも関わらず、まるこ福祉会の方々は快く迎え入れて下さいました。それからこどもレストランに参加させていただいています。

実際に活動に参加して、こどもレストランきらっとという場所の温かさを感じました。子どもたちが一生懸命に遊ぶ姿や、お料理を作って笑顔で報告してくれる姿、美味しい!とご飯を食べる姿を見て、こどもレストランという場所が子どもたちにとってどれだけ大事な場所であるのか感じました。また、この場所は私自身の居場所にもなっていました。いつ来ても温かく迎えて下さるこの場所で私はたくさんの経験をしました。子どもたちとの関わりだけでなく、同世代のボランティアの方々との交流や、

普段関わる機会の少ない大人の方々との交流など、お家や学校では経験できないことがたくさんでき、私の毎月の楽しみになっていました。

当時の私は、大学生の方々の姿をみて、子どもと関わる姿勢を学んだり、大学のお話を聞いて大学生への憧れを持ちました。また、大人の方々とお話をする中で色々なことを学び、自分の中でやりたい事がどんどん増えていき、自分の視野が広がっていきました。大人も子供も世代を問わずに繋がりを持てる場所の良さを身をもって感じました。

現在は、ここで学んだことを活かし、今住んでいる長野市で子どもの居場所づくりを行う団体に参加したり、オンライン上で不登校の子供たちと関わる活動をしています。

私は将来、長野県の小学校教員を目指しています。なれた時には、子どもたちが様々な世代の人々と交流をしていけるような授業を行い、学校以外の居場所もあるということを知ってもらいたいです。そして、たくさんの方々のことを経験させてあげられるような先生を目指していきたいと思います。

(2)「こどもレストランで学んだこと」 丸子修学館高校1年 Nさん

みなさん、こんにちは。わたしは、現在、丸子修学館高校に通っております、Nと申します。私の過去についてお話しします。私は、小学校2年頃から、心がやんでしまい、自分を傷つけてしまうようになりました。

そのときは、がんばって学校に行きましたが、中学2年になると、学校に行くのがいやになり、1か月間休み、そのうち、全然行けないときがありました。

家庭内の事で悩み、自分的に、何が嬉しくて、何が悲しいかよくわからなくなり、その結果。みんなに会うことがいやになり、顔をみることも、話すことも、すべてがいやになり、仲間の集団にも入れず、「私は、一人ぼっちだ。これから、どうやって生きていったらいいのか」、「もう、どうでもいい」という気持ちの毎日で、毎日が、色でいえば、まっくろでした。

結局、中2年と3年の時は、「うつ病」にかかり、夜もねれない、食事もできない、ともだちは、いない。これからいったい、どうしたらいいのか、すべてがいやになりました。

うつ病になると、夜は、2か時3時に寝て、1時間しか寝れないときもあり、夕方起きるときもありました。

学校に行っても、だれもいない保健室、それも1人。もう、がまんできなかつた。勉強もわからない。人に会えば「引きこもりだ」と嫌なことを言われ、それに学校も人が多いから、クラスにも入れれなかつた。うつ病で、変頭痛にもなつた。いじめも受けた。これまでは、毎日が、黒色で地獄でした。

こんな私に、「こどもレストランにいつてみたらと声をかけてくれたのが、保健の先生とカウンセリングの先生でした。

今、思っていることは、その時に、保健の先生とカウンセリングの先生に出会えてよかったということです。それで、こどもレストランに来れたのです。

今年の12月だと思ひます。まるこ福祉会に初めて、こどもレストランに行きました。最初は、とても緊張していたことと人が多かつたことだけで、自分は、いったい、こんな人が多いところに来れるのかなと不安もたくさんありました。

そして、こどもレストランがきっかけで、私は、生まれ変わりました。

最初の不安を一気に取り消してくれた人たちがいました。

その人たちから、「中学校を卒業したら、どこに行くの」と聞かれ、いきなり「丸子修学館高校においでよ」と言ってくれたのでした。

その時、私は、嬉しくて、涙が止まりませんでした。

私は、それまでは、中学を卒業したら、何もやりたくない気持ちだったので、その時は、「わからない」としか言えませんでした。

こどもレストランでおやきを作っていると、あるおばあちゃんが、「これ、手伝って」といわれ、手伝ったら、おばちゃんから「ありがとう」と言ってくれたのでした。そこで、私は、決めました。

こどもレストランに来て、本当によかつた。引きこもりの私が、こどもレストランで、ボランティアになれるなんて、10年前のあの自分が考えられません。こんなに、生き返れるなんて。嬉しくて言葉になりませんでした。

こどもレストランは、こどもに食べ物や食事を提供してくれる。それだけではなりません。参加する私たち一人ひとりの生き方まで、輝く方向に変わると思ひます。こどもレストランには、仲間が、います、先輩がいます、尊敬できる地域の人たちがいます。だから、私は、こどもレストランで変わったと思ひます。社会にも、人生にもたくさんの「ありがとう」の言葉があります。

私は、その「ありがとう」の言葉で、これから、人から「ありがとう」と喜んでもらえる人になれるよう、福祉を勉強して、将来は、人を助ける仕事に就きたい。そんな自分になりたい。私の夢は、介護福祉士になることです。

(3)「第51回こどもレストランに参加して」 2022年11月5日

エクセラン高校の橋本先生のお話

「私は、長野大学の中村学長ゼミに所属している時、学長より、将来、学校の先生になるのなら、まるこ福祉会が運営している、『こどもレストラン』でボランティアをした方がいい。そこに来る子どもたちとしっかり接すると、子どもたちの心が分かるようになるし、子どもとどのように関わっていったらいいか、その答えがでるよ。と指導をいただき、私自身、こどもレストランのボランティア参加をすることが出来ました。

その結果、学校の教員を目指し合格後、本年4月より、松本にあるエクセラン高校の教諭として、現在、勤めております。

そこで、うちの高校の生徒たちにも、私と同じように、まるこ福祉会のこどもレストランでボランティア参加をさせてあげたい。そこで、学校や社会で経験できない貴重な経験を積ませたいと思い、今回電話をし、上田市ではないですが、うちの高校生が初めてボランティア参加をすることができ、貴重な体験をつかむことができました。本当に、ありがとうございました。

参加する前、学校で、5人の女子生徒たちと、あいさつの練習をしました。子どもに接するといっても、最初は、あいさつが肝心です。そのあいさつから、子どもたちの心に中に入っていければと思いました。

当日の11月5日(土)開催の第51回こどもレストランには、教え子5人が、ボランティアとして参加したのです。最初は、どのように子どもたちと関わっていったらいいか戸惑うこともあったと思います。でも、それも勉強です。団子づくりやおにぎりづくり、そして、キッチンカーにお絵描き(長野大学の生徒が企画)と、時間が経つにつれて、子どもたちとの心の距離は段々と縮まっていきました。

それは、理論でも理屈でもありません。こちらから心を開いて、子どもの心に飛び込んでいけばいいのです。そこに、笑顔があると、もっと親近感がでてきます。実は、私が大学生時代、このこどもレストランで体得したことです。

教え子5人は、それなりに、実践してくれました。終了後、生徒に感想を聞くと、全員が、「来てよかったです。学校や家庭では、小学生の子どもたちに接する機会は

ないけど、ここに来ると、思っていた時より子どもたちは、素直でした。これから、もっと子どもたちと関わり、子どもたちの心や関係作りを学んでいきたいと思いません」と、目を丸くして語ってくれました。

今回の体験から、私は、教え子をこどもレストランにボランティア参加させて本当によかったと、心の底から思いました。これからも、また、お世話になりますが、よろしく願い申し上げます。

2 高校生が小学生に伝える「ヒロシマ原爆と命の尊さ」(以下は当日の要旨)

(1) 趣旨

広島に原爆が投下されて、本年 77 年を迎えます。その歴史や教訓は、決して忘れてはならない事であります。

しかし、子どもたちにとっては、戦争の恐ろしさはなかなか実感として捉えることはできにくいものです。

そこで、世界で唯一の被爆国の日本で広島に原爆が投下された、8 月 6 日、上田高校の生徒有志が、子ども食堂に集う小学生に、高校生が小学生に伝える、「ヒロシマ原爆と命の尊さ」と題して、イベントを企画しました。

(2) 黙とう

(3) 朗読 「ヒロシマ原爆と命の尊さ」

(4) 意見発表「戦争と平和を考える」

高校生として、ヒロシマ原爆とロシアのウクライナ侵攻についての意見発表。

(5) 感想発表 会場の子どもや保護者から上田高校生の発表について感想を述べていただきます。

(6) ボランティア参加の高校生と地域住民との交流 こども 31 名 計 64 名

3 福祉空間施設での活動

私たちの願いは、地域住民との連携・協力により、『地域福祉の灯台』としての自覚と使命に燃え、地域住民の文化活動及び人権尊重の精神の高揚を推進し「生涯学習の学び舎」を構築するものです。

平成 28 年 10 月 15 日にオープンした福祉空間施設は、6 周年を迎え、①パン工房のぐらんまるしえ②厨房(平成 29 年 2 月 1 日給食開始)、③サロンあったかい輪、④きらりホール、⑤きらり市民ギャラリーの 5 施設は、子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に足を運び、潤いの時間を心豊かに

過ごせることが出来る「オアシス」の場として、『地域福祉の灯台』の役目を果たすことができた。また、えんじょいプログラムとして6教室の講座が実施されましたが、本年は、コロナ禍により、開催の延期や縮小を余儀なくされました。

4 地域住民の自治活動に協力し、共生社会に貢献

- (1) 地域住民の避難所として、施設（トイレ、水の確保も含め）と駐車場を提供し、地域住民の安心・安全の確保により、地域のセイフティーネットを構築。
- (2) 町会の敬老会を始め、各種の会合開催の場所としてきらりホールを提供して、避難訓練や地域行事開催の実施を支援しています。

5 幼保の園児との文化・教育交流の推進

長瀬・依田保育園やちぐさ幼稚園を始めとして、地域の園児と障害者・老人ホーム入居者との観劇や音楽会鑑賞の交流を長年にわたり推進。11月には、劇団ばくの演劇公演があり、幼・保の園児たちは、年齢差を超えて、みんなと一緒に楽しむことができました。

6 地元の養護学校生徒の受け入れにより、地域交流と金銭教育を支援

地元の上田養護学校の生徒の教育実習を毎年受け入れ、勤労の大切さを学ぶ機会を提供。高等部1年～3年の全生徒が見学や現場実習を経験した。また、同生徒が、ぐらんまるしえでの買い物を実体験する機会を提供し、金銭教育を支援することができた。事前学習として身に付いた知識や経験は、将来への進路にも繋がり、卒業後、まるこ福祉会に就労する機会となっています。

7 東日本大震災の福島県南相馬市の「物産販売支援」

ノリを始めとした南相馬市の物産を、まるこ福祉会で購入し、「サロンあったかい輪」で販売をして売上金を全額送金。この取り組みを地道に継続しています。

危機の日常化が進む中、孤立したまま困難を深めている人々を絶対に置き去りにしない精神を、皆で保ち続けていきたい。

パンデミック宣言の1週間後に、あのドイツのメルケル首相が演説した言葉は、それは、「私たちの社会は、一つひとつの命、一人ひとりの人間が重みを持つ共同体である」と。

こうした眼差しを失わないことの大切さは、巨大災害が起こるたびに、警鐘がならされてきたのですが、それを、私たち自身も心の警鐘として今後も打ち鳴らしていきたい。

8 高校生、大学生のボランティア活動の受け入れ

丸子修学館・さくら国際・上田・上田東の各高校の生徒及び、長野大学、信州大学の学生たちが、子どもレストランきらりでのボランティア活動を通して、福祉に対する体験学習の機会と進路指導の一助になりました。

9 地域住民のエコ活動への支援と貢献

地域住民がエコ活動として取り組んでいる古布や衣類、アルミカン等の収集を支援するために、まるこ福祉会に提供されたものを有効活用する取り組みをして久しい。

とんぼハウスやきらりでは、その空き缶回収を推進し、地域住民のエコ活動を支援している。また、再使用できる衣類や補助着の受け入れをして、障害者や老人ホーム入居者への提供に協力しています。

10 県外定住者の支援

北海道出身者の上田市への定住を推進するために、その就労の場を提供し、地域住民との交流を図った。また、福祉空間内の一室で、マッサージ治療を施し、地域住民に憩いの場を提供しています。

11 シェルターの受け入れ支援

住宅と食事の場を提供し、社会復帰への貢献をしました。

1、行事等 事業報告

- 令和4年 4月 入所式
第44回こどもレストラン
お花見
- 5月 第45回こどもレストラン
- 6月 第46回こどもレストラン
- 7月 第47回こどもレストラン
あったかい輪研修旅行 志賀高原
新潟へバス旅行
- 8月 第48回こどもレストラン
利用者夏祭り
大樹 夏祭り
- 9月 第49回こどもレストラン
- 10月 第50回こどもレストラン
ジブリ展
ちぐさ幼稚園ハロウィン来所
- 11月 第51回こどもレストラン
劇団バク 公演
- 12月 第52回こどもレストラン
- 令和5年 1月 第53回こどもレストラン
成人式
お楽しみ会



入所式～新しい仲間が増えました～



安曇野へお花見



新潟へバス旅行 海鮮ランチ



あったかい輪の皆さんと
交流研修



ちぐさ幼稚園のお友達のおalloween仮装



毎年恒例の利用者お楽しみ会



成人式



ジブリ展

2月 第54回こどもレストラン祭
上田養護学校実習生受け入れ

3月 第55回こどもレストラン



お話の会の絵本・紙芝居



新グループホーム完成

こどもレストラン ～きらっと～



たくさんのご支援いただきました



50回記念 こどもレストラン きらっと 2022.10.1



100回目指して頑張るぞ!!

第50回こどもレストランきらっと



皆さまのおかげで、こどもレストラン「きらっと」50回開催することができました。100回開催を目標にこれからも頑張っ
て参りますので、今後も応援よろしくお願いいたします。